

## ユニクロに交渉と補償を求めてインドネシアから労働者が来日

ユニクロのインドネシアにおけるサプライチェーン（生産委託工場）、ジャバ・ガーマインド（JG）社で起きている争議の当事者たち、JG 労組委員長と女性労働者を含む 5 人が 10 月 7 日から 14 日まで来日します。3 年以上も争議を続けている JG 労働者たちは「柳井社長と交渉したい、毎日でも抗議行動をしたい、日本の消費者に労働実態を訴えたい」と語ります。下記のように記者会見を開催しますので、取材をお願いします。

**日時：10月9日（火）13時～13時45分**

**場所：厚生労働省記者会**

**発言内容：JG 労働組合委員長、ワーミさんをメインスピーカーに、ユニクロのサプライチェーンにおける労働実態とインドネシア、世界におけるサプライチェーン問題**

**主催：クリーン・クローズ・キャンペーン（CCC）東アジア**

**連絡先：電話：045-353-9008(遠野) Eメール：yokohama-arc@jca.apc.org**

2015年4月、JG社はユニクロ等のバイヤーから注文を打ち切られ倒産、4000人(85%は女性)の労働者は解雇。工場前での徹夜の座り込み、ユニクロ店舗での抗議行動、日本大使館へのデモなど現地での行動を支援しようと、2017年からCCCがユニクロ・キャンペーンを世界規模で繰り広げています。CCCはアパレルのサプライチェーンに取り組む世界最大規模の民間団体です。(JG争議とキャンペーンは別紙参照)

労働者たちがここまで頑張れるのは、自分たちがユニクロの製品を生産してきたという実感があるからです。労働者たちの証言によれば、不衛生なトイレなど劣悪な工場での12時間労働は通常で、納期に合わせ14時間、17時間働き、最低賃金以下の賃金、ハラメントなど過酷な労働条件でした。とりわけユニクロ製品の生産は労働管理、納期が厳しく、労働密度が高かったといえます。そして、突然の解雇。労働者の多くは中年になっており、子どもたちの教育、親の介護への責務がありましたが、経験は無視され生産性が低くなった年齢として再就職先が見つからず、借金を抱えている女性たちも多いと聞きます。

### JG ツアー参加者

Teddy Putra (JG 労組委員長)、 Warmi (JG 女性労働者)、 Muchamad Darisman (WRC・通訳)、 So Sheung (CCCEA)、 Mirjam van Heugten (CCC 本部スタッフ)

### ●日程（仔細は別紙を参照）

#### \*要請行動

10月9日（火）14時から17時頃 ユニクロ東京本部とユニクロ有明本部等

10月13日（土）11時から12時頃 ビックロユニクロ新宿東口店前

10月10日（水）午前中 労働組合によるユニクロ銀座店への抗議行動を予定

#### \*公開講座（仔細はビラを参照）

10月11日（木）18時から20時まで 北沢タウンホール3Fミーティングルーム

10月13日（土）14:00～17:00 明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモン8階